



全日病 S-QUE e ラーニング 看護師特定行為研修

フィジカルアセスメント

共通科目



5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習

適切な問診、意識の評価

岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長

薬師寺 泰匡 氏

フィジカルアセスメント 実習1

岸和田徳洲会病院
救命救急センター
薬師寺泰匡

本日の内容

目標

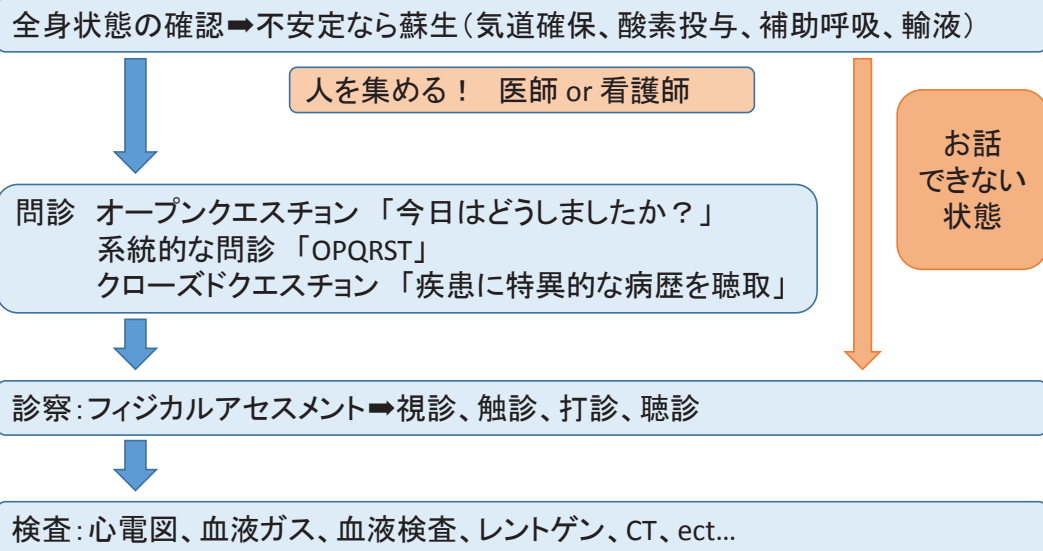
- ・多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状を適切にアセスメントできる
- ・今後必要となる処置や検査の予測ができる

内容

- ・症例で実際に主観的情報、客観的情報を系統的に取得できるように実習を行う
- ・適切な問診、意識の評価

診断と治療の原則

診断への流れ



問診時のテクニック

主観的情報を得る際に

オープンクエスチョン

患者が自分の言葉で自由に回答できる
患者の感情を聴取したり、症状を広く聴取できる
「どうなさいましたか？」

クローズドクエスチョン

患者がハイかイエで回答できる
より具体的な項目や詳細な情報を聴取できる
「症状は○○ですか？」

問診時のテクニック

疾患に近づくための詳細な問診
オープンとクローズドの中間的役割

O(Onset): 発症様式

P(palliative/provocative): 増悪・寛解因子

Q(quality/quantity): 症状の性質・ひどさ

R(region/radiation): 場所・放散の有無

S(severity/associated symptom): 程度、随伴症状

T(time course): 時間経過

問診時のテクニック

O(Onset): 発症様式

突然？急に？緩徐発症？

突然→やぶれた・ねじれた・つまった

心血管系や管腔臓器の異常を考えたくなる

「症状が始まった瞬間を覚えていますか？」

P(palliative/provocative): 増悪・寛解因子

症状を良くしたり悪くする誘因があるか

「何かすると症状が悪化しますか？」

問診時のテクニック

Q(quality/quantity): 症状の性質・ひどさ
症状は疼痛なのか、圧迫感なのか
痛みなら鈍痛か痙痛か
針で刺すよう、バットで殴られたよう
絞られるよう、正座した後のよう
症状を点数化するかどうか

R(region/radiation): 場所・放散の有無
ピンポイントの症状か広い範囲か
どこかに放散するような痛みはあるか
「痛みの場所を指させますか？」

問診時のテクニック

S(severity/associated symptom): 程度、随伴症状
症状のため歩けないか
その他の症状はないか？（嘔吐、かゆみ、脱力など）

T(time course): 時間経過
徐々に増悪しているか
徐々に寛解しているか

実習の前に

準備するもの

- ・模擬患者（シナリオをお渡しします）
- ・筆記用具かパソコン（カルテ記載用）

二人一組で実習を行います

患者役は用意されたカルテ記載を参考に問診に答えてください。問診が終了したら、カルテ記載を完成して、患者役が持っているカルテと照らし合わせてみましょう。また身体所見を実際にとり、カルテ記載を行います。

実習 症例1

61歳男性が頭痛で来院しました。

診察の順番を待ちつつ点滴ベッドで休んでもらっています。

BP 190/80 HR100 RR14 SpO2 98%(RA) BT36.2℃

Q.この人に問診を行ってください。得られた病歴はカルテにまとめて、どのような病気が疑われるか、今後どのような検査が必要となるかを考えて記載してください。

実習 症例2

38歳男性が腰痛で来院しました。

BP 170/80 HR90 RR18 SpO2 98%(RA) BT36.8℃

Q.この人に問診を行ってください。得られた病歴はカルテにまとめて、どのような病気が疑われるか、今後どのような検査が必要となるかを考えて記載してください。

実習 症例3

48歳男性が頭痛で来院しました。

診察の順番を待ちつつ点滴ベッドで休んでもらっています。家族と話をしていたところ意識が低下したようです。

BP 190/80 HR100 RR14 SpO2 98%(RA) BT36.2℃

Q.この人のフィジカルイグザミネーションの一環として意識状態の評価をGCSとJCSで行ってください。得られた所見はカルテに記載してください。